

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓 「自主自立」「創造」「共生」
総合学科の特性を活かし、進学型総合学科として新しい時代に求められる資質・能力を身につけた人物を育む。
1 主体的、対話的で深い学びを通し、「確かな学力」を身につけさせる。
2 生徒自らが主体性を持って思考・判断し、自分の考えを論理的に表現・発表できる授業実践を行う。
3 キャリア教育を通して、将来社会の一員として活躍しようとする姿勢や自己実現する姿勢を育む。
4 生徒一人ひとりが個性を輝かせ、多様な人々との違いを認めあい、協働して学び、人間力を高めあいながらともに成長する態度を育む。

2 中期的目標

1 「確かな学力（基礎的な知識の定着と自ら課題を見出し解決する力）」の育成と授業充実
（1）「主体的・対話的な授業を通して、生徒の論理的思考力を伸ばす授業」「生徒が主体性を持って思考・判断・表現する授業」をめざした授業実践
ア 1人1台端末の授業における効果的な活用により個々の生徒に応じた学び（個別最適化された学び）を提供する。 端末の活用を習慣づけ、連絡等だけでなく、生徒の学びが促進するように効果的な活用を実践する。教務部情報担当を中心に、活用事例を共有することにより学習支援クラウドサービスを活用して情報を提供する。 ※学校教育自己診断（生徒㉔）における「1人1台端末を活用している」の肯定割合を生徒[R3ー、R4 71.6%、R5 83.1%]・教職員[R3ー、R4 67.5%、R5 83.1%]とも令和8年度には95%にする。
イ 教員がお互いに効果的な実践を探究し、授業研究を促進する。特に全校に設置された電子黒板機能付きプロジェクターの有効活用について促進を図る。 相互授業見学を実施する。授業公開[R3 2回、R4 3回、R5 1回]を年3回以上実施する。指導教諭を中心に研究授業を実施し、活性化を図る。 ※学校教育自己診断（教員③）における、「魅力ある授業になるよう指導方法の工夫・改善を行っている」の肯定割合を[R3 81%、R4 84.7%、R5 86.4%] 令和8年度には92%以上にする。
ウ 主体的な学びを促し、自学自習のスタイルを確立する。 ※学校教育自己診断（生徒④）における「家庭等での学習時間が以前より増えた」の肯定割合を[R3 43.8%、R4 51.5%、R5 50.5%] 令和8年度には70%以上とする。
エ 観点別評価の充実 令和6年度に3学年がそろえば、3年間の検証を行い、引続き評価方法を研究し、指導と評価の一体化を図る。 ※学校教育自己診断（生徒⑤）における「成績はテストの点だけではなく、さまざまな観点で評価を受けている」の肯定割合を[R3 77.2%、R4 83.5%、R5 87.1%] 令和8年度には90%以上とする。
（2）進学型総合学科としての教育課程編成を再度検討
ア 令和8年度入学生に向けた教育課程の再検討 総合学科の特色について再検討し、芦間高校総合学科の“進学型スタイル”を確立する。 ※学校教育自己診断（生徒①）における「入学してよかった」の肯定割合を[R3 78.2%、R4 80.9%、R5 84.5%] 令和8年度には90%以上とする。
イ 選択科目の構成について再検討し、現在の社会のニーズに対応できる構成とし、ガイダンス機能を充実させる。 ※学校教育自己診断（生徒⑨）における「選択科目が多く自分の進路や興味に合わせて選べるところが魅力である」の肯定割合を[R3 82%、R4 86%、R5 87.8%] 令和8年度には92%以上とする。
2 夢と志を育むためのキャリア教育及び確実な進路実現につながる進路ガイダンスの充実
（1）「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」について、3年間の内容を体系的に構築する。
ア 「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」では外部リソース（地域の企業、公共団体・大学・学校園）との連携について再検討を行う。
イ 「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」について3年間の体系的なプログラム構築を図る。 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」において、生徒につけたい力を明確に示し、3年間を通じて将来に役立つ素養を獲得させる。 ※学校教育自己診断（生徒⑦）における「自分の適性や将来についてよく考えるようになった」の肯定割合を[R3 68.6%、R4 73.1%、R5 73.5%] 令和8年度には80%以上とする。
（2）ガイダンス機能を充実させたキャリア教育の実現
ア 1年「産業社会と人間」、2年「総合的な探究の学習」においてガイダンス指導内容に関して、進路指導部による進路指導、教務部による科目選択、学年団指導を連動させ、進路実現、将来設計についてわかりやすいガイダンスプログラムを構築する。 ※学校教育自己診断（生徒⑥）における「進路について考える機会が多い」の肯定割合を[R3 84.8%、R4 90.5%、R5 91.8%] 令和8年度には95%以上で維持する。
（3）大学入試への確実な対応
ア 高大接続の変化（入試の多様化）に対応しながら、きめ細かい情報提供を行い、効率的な進路指導を実践する。 ※難関私立大学（関関同立、産近甲龍）実進学者数を[R3 55名、R4 53名、R5 30名]23期生（令和6年度入学生が卒業するとき）は80名以上とする。 難関私立大学（関関同立、産近甲龍）実進学者数
（4）国際理解教育の促進
国際情勢、経済的情勢、教員の勤務状況等を踏まえ、安全で効率的なプログラム提供により、国際理解教育を行い、グローバル感覚を醸成する。 そのためにICT活用、教育産業活用を通じたプログラムに移行するとともに、授業において国際的な内容を織り込み国際理解教育を展開する。
ア イングリッシュ・キャンプの充実 国内における「イングリッシュ・キャンプ」を継続し、複数回実施する。
イ 海外からの交流を受け入れることで全校的な交流機会を設け、国際理解を促進する。 ※学校教育自己診断（生徒㉔R5より設定質問項目）における「国際理解について国際交流プログラムや「英語」「地歴公民」等の授業において学んでいる」の肯定割合を[R5 45.6%] 令和8年度には60%以上とする。 [参考旧⑩「国際理解、福祉ボランティアについて学習する機会がある」R2 40.9%、R3 41.8%、R4 48.7%]
3 安全安心な学校づくり及び共生推進教室と教育相談体制の充実
（1）安定した生活リズムと最低限の規律・マナーの遵守
ア 生徒が安心して通学できる環境を整備し、きめ細かい対応を可能とする組織体制を構築する。また教員一人ひとりのカウンセリングマインド意識を高める。 ※学校教育自己診断（生徒⑫）における「気軽に相談できる」の肯定割合を[R3 63.9%、R4 65.7%、R5 71.3%] 令和8年度には85%以上にする。
イ 服装、遅刻等の指導により規律やマナーについて自ら考えて行動ができるようにする。また、在学中に18歳成年になることを踏まえ、家庭教育や消費者教育、主権者教育、金融教育を進め、社会に適應できる指導を進める。

	※学校教育自己診断における（生徒⑩）「生徒指導方針は理解できる」の肯定割合を[R3 55.3%、R4 65.2%、R5 56.8%]令和8年度には75%以上とする。 ウ 薬物乱用防止指導、安全教育の充実 外部講師を招聘した講演を実施する。薬物乱用防止や安全・安心に対する意識を高める。同時に命の大切さについて理解することができるようにする。 ※学校教育自己診断（生徒⑪）における「命の大切さや社会のルール、豊かな心の生き方について考える機会がある」の肯定割合を[R3 65.2%、R4 75.8%、R5 79.1%] 令和8年度には90%以上とする。 （2）人権学習の効果的な実施 多領域にわたる人権課題を整理して学べるようにプログラムを工夫して提供し、多様性を認め合い、他者尊重できる人材を育成する。 ア 3年間の人権教育プログラムの充実。 多領域にわたる人権課題を学ぶため、3年間を見通した計画を構築する。 ※学校教育自己診断（生徒⑮）における「人権を学ぶ機会がある」の肯定割合を[R3 82.4%、R4 91%、R5 93.3%]令和8年度には95%以上とする。 （3）インクルーシブ教育の推進 ア 共生推進教室における仲間づくりの充実 共生推進教室生と交流できる環境を定期的に設定することや日常の授業や行事の取り組みの中で常に他者理解を尊重する運営を促進する。 ※学校教育自己診断（生徒 新規質問項目）における「共生推進教室の意義を理解し、ともに学び共に育つを進めている」の肯定割合を令和8年度には新規80%以上にする。 イ 共生推進教室生の就労支援体制の充実 （4）防災教育の推進 ア 起こりえる災害に対して状況を把握する力を養い、自分の命を自ら守る行動を身に付けさせる。 ※学校教育自己診断（生徒⑳R5より新規質問項目）における「防災教育を行っている」の肯定割合を[R5 74.1%]令和8年には90%以上とする。 イ 地域コミュニティとして防災活動の実施 地域社会と結びついた活動を実施することで、防災意識の向上を図る。 ※近隣の保育所との防災訓練を実施し、地域とのプログラムを[R3・R4 感染症の影響で未実施、R5 1回実施]年1回以上実施する。 4 広報活動の充実と生徒会活動の活性化 （1）進学型総合学科としての広報活動の再構築を図る。 ア HPの再構築 令和6年度にHPを再構築する。 ※学校教育自己診断（生徒⑲）における「ホームページは必要な情報がえられるようになっている」の肯定割合を[R3 44.4%、R4 48.4%、R5 43.2%]令和8年度には70%以上とする。 （2）生徒会が主体的に活動する体制の構築 ア 各種行事（体育祭、文化祭）への積極的な関わり 生徒会活動にやりがいを持って取組み、自己肯定感の向上につなげる。特に、部活動と連携しながら、行事運営を実施することで、部活動の活性化にもつなげる。 ※学校教育自己診断（生徒⑯）における「文化祭、体育祭などの学校行事に積極的に参加している」の肯定割合を[R3 78.6%、R4 85.6%、R5 89.4%]令和8年度には90%以上として堅持する。 イ ボランティア活動の推進とリーダーとしての活動の場の提供 学校内外における計画的なボランティア活動を推進し、生徒の自己肯定感とともに、社会に貢献することの充実感を醸成する。 ※学校教育自己診断（生徒 R5より設定質問項目）における「福祉やボランティア等について参加する機会やそれらを学ぶ科目が充実している」[R5 26.0%]令和8年度には50%以上とする。 5 働き方改革 （1）働き方改革の推進 ア 在校時間の縮減 効率的な業務を心がけ、毎週の定時退勤日の徹底。また、ノークラブデーや部活動指針を遵守し、効率的な部活動運営を行う。同時に、部活動大阪モデルについて、実施できる部活動ではペアリング校とで調整しながら、実効性のある取組みとし、超過勤務の縮減を図る。 ※学校教育自己診断（教職員①）における「働き方改革を意識した取組みを実施している」の肯定割合を[R3 65.1%、R4 66.1%、R5 49.1%]令和8年度には80%以上とする。 イ 会議運営等や授業において、PC端末を活用して効率的な情報共有等を行うことで、超過時間の縮減の一助となす。 ※学校教育自己診断（保護者⑮）における「教育情報について、積極的に提供する努力をしている」の肯定割合を[R3 62.1%、R4 60.1%、R5 57.4%]令和8年度には75%とする。
--	--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和6年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
学校選択 ※「入学してよかった」において3学年全体の肯定数値は3年間増加しており、総じて期待に据えていると判断している。 【生徒①-4】 ※各期を追いかけてみると、2年生において下がっているものの、3年生では再び肯定感が強くなっていて、高い数値で終えている。これは選択科目が2年生から始まり、実際に授業を受講していくなかで満足度が上がっていると分析できる。ほかにも行事等において充実感を感じる機会により上級生になってから伸びたと判断している。【生徒①-6、7】 学習に関すること ※「授業が分かりやすい」においてと肯定的に回答する割合が本年度80%	第1回学校運営協議会【日時と場所】令和6年6月20日（木） 15:00 ～ 16:45 【内容】 1 事務局紹介・協議員紹介 2 会長及び副会長選出 3 報告・連絡事項 （1）令和6年度進路状況 ・学校経営計画にて進学者数を掲載 （関関同立 7名 産近甲龍 32名 摂神追桃 55名 合格実数） （2）進路の手引きについて ・冊子としてだけでなく、配信も含めて保護者・生徒にも伝わる情報発信をすすめたい。 （3）令和6年度「産社」「総探」について

となり、授業の充実は果たせている。 【生徒②-1～8】	
*学校教育自己診断のデータではないが、1学期末、2学期末の授業アンケートにおいて、全体の平均ポイント【4（上位）～1（下位）の数値】は昨年度 3.36 から 3.44 と大きく上昇した。	
*授業満足度は、総合学科なので2,3年生で科目選択により選択受講することが背景にあるので高い傾向にある。とはいえ今回の数値は非常に高い数値であり、教員が授業改善に取り組むとともに、生徒の状況を把握しながら授業に臨んでいると判断できる。	
*少人数授業展開を構成していることが生徒にとって有効であることがわかる。「国語・数学・英語の少人数授業は自分の理解度に合っていて内容がよくわかる」において昨年度よりポイントが上がっている。【生徒③-1～8】	
*「家庭等での学習時間が以前より増えた」において、学年が進むにつれて増加しており、学びの姿勢を向上させることに成果は出ている。【生徒④-1～8】	
*観点別評価については、3観点評価が3学年とも実施されている世代である。今年度は「さまざまな観点で評価されている」という質問から「評価の観点について説明を受けて理解している」に変更した。昨年度との単純比較はできないが、この質問において、3年生は伸びていたが、ほかでは伸びはなかった。今後は生徒が自分の評価を理解できるように、指導と評価の連動を作り出し、教育成果をあげていく。【生徒⑤-1～8】	
進路・キャリア教育に関すること *「進路について考える機会が多い」において、総じてデータは上昇しているので、キャリア教育プログラムの成果があると判断している。同時に保護者からも理解を得ているとも判断している。 【生徒⑥、生徒⑦】【保護者⑥、保護者⑦】 *「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」のプログラムの連動、個々のプログラムのブラッシュアップ、精選を進めることで、各数値をさらにアップさせていく。	
人権に関すること *「人権について学ぶ機会がある」において、人権意識を高めている。講演実施だけでなく、日常のHR、授業、行事において、生徒の心に響くプログラム展開や話を組み込むことにより高めることができたと分析している。 【生徒⑮-1～8】 *多様なテーマと人権課題がある現代社会において、生徒全員が人権意識を高めて卒業できるよう引き続き積極的な展開を進めていく。	
教育相談に関すること *「気軽に相談できることを知っている」において、学年が進むごとに相談できる教員が増えている。教育相談は現在の学校において最重要課題だと考えているので残りの知っていると回答できない生徒が、肯定的になるように改善していく。 【生徒⑫、⑬ 1～8】 *教員一人ひとりがカウンセリングマインドを心がけている成果は出ているが、まだまだ「寄り添い」教育を重視して臨むことを継続していく。	
生徒指導に関すること *「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会、豊かな心や人の生き方を考える機会がある。」において、年々伸びておりプログラムとして成果は出ていると判断できる。 【生徒⑩】 *「学校の生徒指導方針は理解できる」において、60%前後で推移している。保護者の理解も含めて、生徒の意見を聞きながら、生徒が主体的に行動できるように進めていく。【生徒⑩】【保護者⑬】 *生徒の遅刻数が大きく減少している。生徒は守るべきルールは尊重し、規範意識が高まっていると受け止めている。	
学校運営 *「学校の教育方針や経営方針をわかりやすく伝えている」において、改善が進んだ。【生徒⑳ 1～8】 *「先生は責任をもって授業やその他の仕事にあたっている」において数値が伸びた。生徒は、教員が頑張っていると受け止めている。学年が進むにつれて、この数値が上がっていることは、教員のやりがいとなるデータ	
・総合探究 テーマ別（個人・グループでの）研究・レポート作成・発表 →今後は芦間スタンダードとして設定をめざす。 （4）令和7年度教科書選定について ・現在選定中。次回、選定教科書を提示予定	
4 審議事項 （1）学校運営協議会要項等改定について ・変更無しで了承 （2）令和6年度 学校経営計画について ・再確認の上、了承	
5 協議 （1）進路指導についての提言 （委員より） ・自分の適性・個性の見極めができるアドバイスがあると良い。教員ともっと話が出来れば良い。 ・大学のことを知ることも少ないが、学校ではどのように知る機会を設けているのか。（事務局） ・大学見学は、1年生で全員が行く。2年生では分野別説明会を校内で開催している。 ・個別での対応は、向き合う時間をつくりたいが難しい。1年生の産社と有効に連動して、総合学科としての強みを活かしたい。 （委員より） ・進路変更の生徒も出てくると思うが、選択時に詳しくガイダンスはされているのか。 ・普通科と総合学科の違いがあまりないように見える。科目選択の件で総合学科らしさを出す。 ・科目選択の先輩からの話（体験）を入れると良い。 （事務局） ・科目選択時にモデルケースを提示（科目選択の手引き）している。担任・教科から等、他の教員も説明・相談を実施している。生徒と教員が面談に利用できるよう、進路資料室も解放している。 （委員より） ・進路の手引きは、詳しくて良い。学校としての進学のためやすやす基準の掲載をしてはどうか。 ・職業インタビューも手引きに掲載してはどうか。 ・進路や仕事について身近な人（教員・保護者・卒業生など）の話を掲載する、講演してもらうなどはどうか。保護者のサポートなども募ってはどうか。 ・自分自身のワクワクする手引きをつくってほしい。生徒自身の自分なりの手引きをつくるのはどうか。 ・学部での学びと仕事にはずれがあり、大学を出てからどうするのかの指導が高校段階でも必要。 ・人生100年時代に求められている人材とは、社会人基礎力をいかに身につけているかにかかっている。考え方、主体性、リーダーシップ、個人がキャリア実践に向けて主体的に行動することをどう身につけていくのが大事。 ・守口市では配信で市内の中学生は同じ進路の手引きを持っている。高校の先を見据えて、生き方を考えさせるものから、具体的な高校選びに進む。 ・キャリア教育として、小・中・高でのキャリアパスポートの連携がうまくいっていない。 ・基礎学力を中学校でつけて、高校ではより社会に出る意識で学ぶと良い。	
（2）「産社」「総探」についての提言 （委員より） ・芦間高校の長年の取り組みで、内容はよく計画されている ・「自立して主体的に生きていくにはどうしたら良いのか」という目的について、①個人として・②社会の一員としてそれぞれの視点でルーブリックが立てられると良い。 ・学校の教員だけで進めなくても、地域や大学教員なども使って進めていくと良い ・中学校に取り組みが伝わっているのか。保護者にも伝えていけば良い。 （回答） ・経営計画にもあげたHPのリニューアルをこれらの情報発信に利用していきたい。	
6 第2回について 次回実施日 令和6年11月 内で、後日調整	
第2回学校運営協議会【日時と場所】令和6年12月2日（月） 15:00 ～ 16:45 【内容】本校教頭による司会で進行 1 校長挨拶 学校運営協議会開催への感謝と、今後の学校運営に関する期待が述べられた。 2 審議事項 （1）令和7年度教科書選定について（承認） 教務部長より、資料2を基に説明が行われた。選定の方向性について意見が交換された。 ・選定基準：幅広い学力層に対応できる内容や見やすい構成を重視。	

である。【生徒㉑1～8】

情報伝達

＊「HPは必要な情報がえられるようになっている」において、半数を割っている。HPの充実度について本年度中には改善することができなかった。4月にHPを改訂し、情報提供に努めていく。また保護者への文書もデジタル配信するシステムも開始する予定である。【生徒⑱】【保護者㉓】

施設・設備

＊「施設・設備は満足できる」においては、数値は高いとは言えないものの、3年間伸びている。校舎内は業者の清掃だけでなく、生徒も清掃にしっかりと取り組んでいる。予算を地道に獲得しながら、改善に努めている。【生徒⑱】

＊「1人1台端末を効果的に活用している」において、3年間満足度を高めている。現在のICT環境の中で、教科特性に応じた活用、より分かりやすく進めるための活用、思考力・判断力・表現力をより向上させる活用、評価と指導をより連動させる活用等を各教員が試行錯誤しながら努力していることが反映されている。【生徒㉓-4】。

学校行事・生徒会活動

＊「体育祭・文化祭などの学校行事に積極的に参加している」において、3年間増加している。生徒が積極的に行事参加できるよう企画運営していると判断できる。【生徒⑳】

＊行事の取り組みも含めて、生徒とともに企画していくことを大切にしている。生徒会では、生徒の話し合いを尊重しながら企画運営に取り組んでおり、成果は出ている。

- 3 報告・連絡事項
- (1) 学校の状況について
- ① 授業アンケート結果と授業について
- 校長より、アンケート結果と現状の授業運営に関する報告。
- ② 働き方改革として
- 校長より、以下の内容が説明された
- 組織対応の進捗、新たな制度「在宅勤務」の導入、ストレスチェック結果
- ③ 広報の現状
- HPの改訂（首席）HP内容の更新状況と改善点を説明。
- 志望者動向（校長）志望者の動向とその要因について分析が共有された。
- 4 協議
- (1) 学校状況についての提言
- ① 授業について
- アンケート結果を基にした意見交換が行われ、改善案が提案された。
- ・昨年度より評価が上昇（平均3.35→3.43）。
- 要因分析：
- ・教員と生徒の接し方が改善。
- ・ICTツールの活用が深化。
- ② 組織について
- ・働き方改革への意見やさらなる改善案が議論された。
- ③ 広報について
- HPや広報活動の効果を高める具体策について提言が行われた。
- ・HPの刷新計画：
- ・情報の整理と見やすさ向上を目的とし、中学生とその保護者を最優先。
- ・在校生・保護者にも楽しみにしてもらえるHPになってほしい。
- 5 第3回学校運営協議会について（校長より連絡）
- (1) スケジュール
- 日時：令和7年2月6日（木）
- 内容：総合的な探究の時間「ジョブクエスト」および産業社会と人間「ジョブカバリー」の探究発表を見学。発表後の助言を協議会委員に依頼。
- 6 校長挨拶
- 協議会での活発な意見交換への感謝と、次回の協議会への期待が述べられた。

- 第3回学校運営協議会【日時と場所】令和7年2月25日（火） 11:00 ～ 12:30
- 【内容】
- 1 校長 挨拶
- 2 報告
- (1) 本日の「総探」「産社」の発表について
- ①見学された運営協議委員より感想をいただいた。
- ②総探主担、産社主担より、発表会について説明された。
- (2) 広報と入試について
- ①入試状況について、校長より報告
- ②HP進捗状況（サーバーの変更、HPのデザイン案）を首席より報告
- (3) 学校教育自己診断結果と分析
- ①各対象の回収率（生徒95.3% 保護者76.0% 教職員97.0%）について首席より報告
- ②昨年度よりも良い回答につながる項目が増えた。
- ③生徒の学校生活への満足度をさらに高めるよう、取り組みを見直す。
- (4) 学校経営計画
- ①令和6年度 学校経営計画 評価案
- ・学校教育自己診断などの結果より、達成できた項目が増えたと評価している。
- ②令和7年度 学校経営計画 計画案
- ・科目選択や産社・総探を含めた、本校の特色を活かす内容の構築に向けてカリキュラムマネジメントをすすめる。
- ・改めて、国際理解について取り組みの活性化をめざす。
- ・HPなど、広報活動では発信の機会を増やす。（1）本日の「総探」「産社」の発表について
- 【内容】
- 1 校長挨拶
- 校長より、学校運営協議会開催への感謝が述べられた。
- 2 報告
- (1) 本日の「総探」「産社」の発表について
- ①見学された運営協議委員より感想をいただいた。
- ②総探主担、産社主担より、発表会について説明された。
- (2) 広報と入試について
- ①入試状況について、校長より報告
- ②HP進捗状況（サーバーの変更、HPのデザイン案）を首席より報告
- (3) 学校教育自己診断結果と分析
- ①各対象の回収率（生徒95.3% 保護者76.0% 教職員97.0%）について首席より報告
- ②昨年度よりも良い回答につながる項目が増えた。
- ③生徒の学校生活への満足度をさらに高めるよう、取り組みを見直す。
- (4) 学校経営計画
- ①令和6年度 学校経営計画 評価案

	・学校教育自己診断などの結果より、達成できた項目が増えたと評価している。 ②令和7年度 学校経営計画 計画案 ・科目選択や産社・総探を含めた、本校の特色を活かす内容の構築に向けてカリキュラムマネジメントをすすめる。 ・改めて、国際理解について取り組みの活性化をめざす。 ・HP など、広報活動では発信の機会を増やす。 3 協議 (1)「総探」「産社」の発表について ・合同プロジェクトとして、2 学年約 500 名が参加し、発表活動を行った。 ・初めての試みであり、うまくいかない部分もあったが、全体としては有意義な取り組みであったと評価された。 ・発表の経験が不足している点が反省点として挙げられ、今後は発表機会を増やす必要がある。 ・生徒が自分の興味を深め、さらに充実した活動ができるよう、カリキュラムの改善が求められている。 (2) 広報と入試について ①入試状況 ・志望者数に関する校長より報告。 ・昨年度の入試では 1.18 倍の志望者があり、その反動が今年に影響を与えたとのこと。 ・私立学校に生徒が流れる傾向が見られ、私立の進学者数が増加している。 ・学校の教育・自己診断のデータからは、生徒指導に関する方針が影響している可能性がある。 ・進路指導や教育内容の改善を引き続き進めていく必要がある。 ②HP 進捗状況 ・現在、学校のホームページはサーバーに実装され、内容を作成中。 ・オープンスクールやインスタなどの活動を紹介。 ・学校の立地（守口駅から近い）を強調した内容にし、総合学科の魅力や学校の取り組みも掲載予定。 ・これまでの HP は一部保護者から「見にくい」との意見もあり、今回の改善により、全体としては使いやすくなったと感じている。 (3) 学校教育自己診断結果と分析 ・学校の教育や進路指導に関する自己診断の結果が報告され、全体的には良好な結果が出ているが、若干の改善点もある。 ・特に HP について「見にくい」「分かりにくい」といったフィードバックがあり、改善が必要とされている。 ・生徒指導の方針について、納得できていると感じる生徒の割合が減少しており、この部分での改善が求められている。 (4) 学校経営計画 ①令和6年度 学校経営計画 評価案 ・学校教育自己診断の回収率が高いこと、その上で結果が出ていることに良い評価をいただいた。 ・ICT の活用度、進学実績の向上、共生・教育相談の推進、情報伝達・広報の展開、国際交流の活性化が課題としてあげられた。 ②令和7年度 学校経営計画 計画案 ・令和6年度の学校経営計画の評価より、次年度の中期目標の構成を変更し、計画に追加した。 ・DX 事業の推進を図り、ICT の活用度の向上をめざす。 ・カリキュラムマネジメント（“芦間高校総合学科 2.0”）を検討し、学びと進路実現の充実を図る。 ・新しい連絡網での保護者・生徒への連絡手段の構築と新しい HP・SNS を利用した広報活動など、情報発信・周知をすすめる。 ・国際交流では、新入生から修学旅行先を海外に設定し、海外へ体験交流する機会を設定する。 4 提言 ①報告（4）学校経営計画について ・ICT の活用度は続けていくことで上昇するため、今後も取り組みを続けるのが良い。 ・国際理解教育や多様な進学実績などの要素を学校の魅力として強化し、ホームページを通じて積極的に発信することが重要。 ・総合学科の内容が伝わっていないので、芦間高校として工夫が必要。 ・予習・授業・復習のサイクルができていると、進学実績につながる。そのためには、学力のカウンセリングをこまめにする。（未達成・未理解のチェックが必要） ・進学実績が重要視される一方で、芦間高校の多様な進路選択を強調する方向性が提案された。 ・実際、進学型のスタイルではなく、さまざまな進路に対応できる柔軟な学校としてのアピールが可能であるとの意見が出された。 ・保護者からは、学校の魅力をより分かりやすく伝えるための施策として、多様な進学実績や国際教育など独自の取り組みを強調することが提案されている。 ・また、学校独自の強みをアピールし、競争力を高める必要があるという意見もあった。 5 審議 (1) 令和6年度 学校経営計画 評価案 承認された (2) 令和7年度 学校経営計画 計画案 承認された 6 校長挨拶 令和6年度協議会での活発な意見交換と審議についての感謝とお礼が述べられた。 次年度に向けて、委員の継続を依頼があった。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 確 かな 学 力 の 育 成	(1) 1人1台端末を活用した授業実践 ア 1人1台端末の効果的な活用	(1) ア 端末を効果的に活用し、個々の生徒の学びを促進する。	(1) ア 学校教育自己診断(生徒㉓)における、「1人1台端末を効果的に活用している」の肯定割合を85%以上とする。[83.1%]	(1) ア 91.2% (◎)
	イ 相互授業見学と授業研究	イ 授業研究を設定し、指導教諭を中心に授業改善を図る。	イ 学校教育自己診断(教職員㉔)において、「日常的に話し合っている」の肯定割合を80%とする。[72.9%]	イ 74.6% (△)
	ウ 自学自習の促進	ウ 有意義な課題設定、端末の活用、教育産業のデータ活用等を工夫し、生徒の学びの意欲を醸成する。	ウ 学校教育自己診断(生徒④)における「家庭学習する時間が増えた」の肯定割合を55%以上とする。[50.5%]	ウ 55.1% (○)
	エ 観点別評価の定着	エ 指導と評価が連動し、授業での充実感を高める。	エ 学校教育自己診断(生徒⑤)における「成績はさまざまな観点で評価されている」の肯定割合を90%以上とする。[87.1%]	エ 84.3 (○) 質問「成績はさまざまな観点で評価されている」を「先生から評価の観点について説明を受け、理解している」に変更。単純比較はできないが、否定的な状況ではない。今後も全生徒が自分の評価について理解できるようさらに改善していく。
	(2) 進学型総合学科としての教育課程の検討 ア 教育課程の再検討	(2) ア 希望進路ごとのガイダンスを充実させるために教育課程全体の再検討を行い、生徒のニーズに応える。	(2) ア 学校教育自己診断(生徒①)における「入学してよかった」の肯定割合を85%以上にする。[84.5%]	(2) ア 87.1% (○)
	イ 選択科目の再検討	イ 多様な学びにより、将来につながる構成を提供するとともに、希望進路につながるガイダンス機能を構築する。	イ 学校教育自己診断(生徒⑨)における「多様な選択科目が多く進路や興味に合わせて選択できることが魅力である」の肯定割合を90%以上で維持する。[87.8%]	イ 89.2% (△)
2 キ ャ リ ア 教 育 及 び 進 路 ガ イ ダ ン ス の 充 実	(1) キャリア教育の体系化 ア 外部リソースを活用したプログラム構築	(1) ア 地域企業、公共団体、大学・学校園と連携したプログラムを構築し、生徒の興味関心を高める。	(1) ア 地域企業との連携、こども園、保育園との連携、大阪教育大との連携、専門学校との連携により外部リソースを活用する。	(1) ア 地域企業に総探発表でアドバイスと好評をいただき、充実に寄与させている。こども園とは避難訓練をともにを行い、意識向上につなげている。大阪教育大学とは連携大学院生を受け入れている。専門学校留学生を活用してイングリッシュキャンプを実施した。(○)
	イ 3年間の体系的プログラムを構築	イ 生徒に獲得させたい力を育成する。	イ 学校教育自己診断(生徒⑦)における「自分の適性や将来についてよく考えるようになった」の肯定割合を75%以上とする。[73.5%]	イ 79.9% (○)
	(2) キャリア教育の充実 ア わかりやすいガイダンス	(2) ア 進路指導部、教務部等が連動したガイダンスを行う。	(2) ア 学校教育自己診断(生徒⑥)における「進路について考える機会が多い」の肯定割合で93%以上を維持する。[91.8%]	(2) ア 92.2% (△)
	(3) 大学入試の確実な対応 ア 多様な入試への対応	(3) ア 多様な入試方法について情報提供を行い、進路実現を果たせるよう指導する。	(3) ア 難関私立大学(関関同立、産近甲龍)実進学者数を21期生では60名以上とする。[30名]	(3) ア 国公立大学4名、 難関私立大学 名 (31名) (△)
	(4) 国際交流事業の再構築 ア イングリッシュキャンプの充実	(4) ア 国内でのプログラムを充実させ、国際理解促進をより多くの生徒に体験させる。	(4) ア イングリッシュ・キャンプ満足度95%以上になるようにする。[100%]	(4) ア 100% (○)
	イ 海外の生徒との交流	イ 海外からの高校生の交流を受け入れる過程で国際理解を促進。	イ 学校教育自己診断(生徒㉔R5からの質問項目)における「国際理解について国際交流プログラムや「英語」「地歴公民」等の授業において学んでいる」の肯定割合を60%以上とする。[45.6%]	イ 59.9% (○) 60%には満たないが伸びが大きく、ほぼ達成できた。
3 安 全 安 心 な 学 校	(1) 規律・マナー遵守 ア 教育相談体制の充実	(1) ア 寄り添いの姿勢で生徒対応の推進。	(1) ア 学校教育自己診断(生徒㉚)における「気軽に相談できる」の肯定割合75%以上とする。[71.3%]	(1) ア 72.8% (△)
	イ 規律遵守、マナーの尊重	イ 規律について理解させ、学校生活の充実を図る。	イ 遅刻数を減らす。1500回以下に[1802回]	イ 1365回 (◎)
	ウ 薬物乱用防止教育、安全教育の充実	ウ 1年生における防犯教室や道路交通法を見据えた交通安全教育を更に充実させることで、交通マナーを意識して行動できるように	ウ ・1学年で外部講師等を招聘して薬物乱用防止教室を1回は実施する。[1回実施]	ウ ・1回実施 (○)

府立芦間高等学校

づくり	(2) 人権学習の効果的な実施 ア 3年間の人権教育プログラムの充実	(2) ア 系統的に人権教育を実施する。とりわけ1年生は障がい者理解教育、2年生は同和教育及び異文化理解、3年生は差別問題を柱とした計画とする。	・R6年度における登下校の危険箇所の調査と周知を行う。[1回実施] (2) ア 各学期にテーマに沿った人権課題を考えられる機会を設ける。学校教育自己診断(生徒⑮)における「人権について学ぶ機会がある」の肯定割合を95%以上とする。[93.6%] (3) ア 年度当初に学年集会等を実施し、共生推進教室生を紹介、挨拶する時間を設ける。※学校教育自己診断(生徒新規質問項目)における「共生推進教室の意義を理解し、ともに学び共に育つを進めている」の肯定割合を80%以上にする。[新規]	・1回実施(○) (2) ア 92.9%(△) (3) ア 学校教育自己診断実施にあたり、質問項目に新設しなかった。3年生に行う共生推進教室についてのアンケートの「ともに学べてよかった」という質問では、肯定割合が84.4%であった。指標が、今年度の目標には達していると判断した。(○) イ 1回参加(○) (4) ア 74.7%(△) イ 1回実施(○)
	イ 共生推進生の就労支援充実 (4) 防災教育の推進 ア 命を守る行動の指導	イ 個々の生徒課題を明確にした指導を進め、職場体験において成功体験を積ませる。 (4) ア 訓練を通じて防災意識を高める。	イ 職場体験を一人1回は参加させる。[1人1回以上参加] (4) ア 学校教育自己診断(生徒⑮R5より新規質問項目)における「防災教育を行っている」の肯定割合を80%以上とする。[74.1%]	
	イ 地域コミュニティとしての防災活動の実践	イ 地域の学校園と共同で行い、防災活動が地域コミュニティとしての活動が重要であることを学ぶ。	イ 近隣の保育所との防災訓練を再開し、地域とのプログラムを年1回以上実施する。[1回以上実施]	
4 生徒会活動の活性化と広報活動の充実	(1) 広報活動の更なる充実 ア HPの再構築	(1) ア HPを全面的に見直し、閲覧者目線を心がけながら、学校情報を迅速でわかりやすく発信できるように再構築を行う。	(1) ア ・HPを再構築する。[完了できなかった] ・学校教育自己診断(生徒⑮)における「ホームページは必要な情報がえられるようになっている」の肯定割合を50%以上とする。[43.2%]	(1) ア ・構築中、R7.4月より新規掲載予定(○) ・48.4%(△)
	(2) 生徒会活動の活性化 ア 各行事への積極的な参画	(2) ア 生徒会が学校行事を主体的に運営し、教職員及び生徒による協働的な学校行事となるようにする。	(2) ア 学校教育自己診断(生徒⑮)における「学校行事に積極的に参加している」の肯定割合を85%以上とする。[89.4%]	(2) ア 92.9%(◎)
	イ ボランティア活動の活性化	イ ボランティア活動への積極的な参画により自己肯定感、社会貢献の充実感を醸成する。	イ ボランティア活動の紹介を行い、自発的な参加を促進する。 学校教育自己診断(生徒R5より新規質問項目)における「福祉やボランティア等について参加する機会やそれらを学ぶ科目が充実している」の肯定割合を40%以上とする。[26.0%]	イ 今年度この質問項目は実施しなかったボランティアの案内等は校内掲示、クラス掲示を行った。部活動へボランティア参加の依頼があり、生徒会役員、軽音楽部、ダンス部、書道部等、複数の部活動が淀川マラソンはじめ府下のボランティアに参画した。(○)
5 働き方改革	(1) 働き方改革の推進 ア 時間外在校等時間の縮減	(1) ア 部活動方針を遵守するとともに部活動大阪モデルについて取り組む。	(1) ア ① ・学校教育自己診断(教職員①)における「学校は働き方改革を意識した取り組みをしている」の肯定割合を70%以上とする。[49.1%] ・教職員一人あたりの超過勤務時間数で前年度より5%減をめざす[33h52m(4月～12月を比較)]	(1) ア ・62.8%(△) ・29h22m(年間)(○)
	イ 効率的な業務運営の実施	イ 保護者への文書配布をデジタル化することにより、業務の短縮を図るとともに、確実な連絡体制を構築し、保護者への寄り添いを充実させる。	イ 学校教育自己診断(保護者⑮)における「教育情報について、積極的に提供する努力をしている」の肯定割合を65%とする。[57.4%]	イ 63.7%(○) 昨年度よりは改善できた。